

汚いイーブイを見つけたので虐待することにした。

石巻 青葉(いしまき あおば)

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

汚いイーブイを見つけたので虐待することにした。
猫虐待コピペという有名なコピペのパロディです。

目次

汚いイーブイを見つけたので虐待するこ
とにした。(再投稿)

1

汚いイーブイを見つけたので虐待することにした。（再投稿）

トレーナーズスクールの帰りに汚いイーブイを見つけたので虐待することにした。

どうやらケガをしているようなので、ここぞとばかりに薬品を傷口に噴射し、塗ってくる。どうだ、しみるだろ。

それだけでは物足りない、オレンジの屋根の施設へとイーブイを連れ込み、機械の中に監禁する。

イーブイが機械から開放されるや否や今度は小さなボールに閉じ込めて、家へと持ち帰る。

家に着いたらイーブイに私には食べようとすら思えない茶色で円柱型の物体を食べさせ、デザートには変な色や形をした木の実を食べさせる。

食後は骨やボールを遠くに投げ、何度も持つて来させることによって体力を消耗させ

る。イーブイが疲れてぐったりしてきたところで狭い空間にもう一度閉じ込めて就寝。

汚いイーブイを虐待するために連れ帰ってから1週間が経った。

今日はライモンシティにある施設に連れていくつもりだ。

イーブイと高速で上下を繰り返し、重力で苦痛を与える拷問器具に乗る。イーブイは高いところが怖いのか、「ブイ！ ブイ！」と体をくっつけてくる。そんなこともお構い無しにぐるぐると高速で回る機械や、長時間高所の密室に閉じこめる機械にのせてやる。

帰り際、歩けなさそうなくらいに疲れているイーブイに追い打ちをかけるようにボールの中に閉じ込めてやる。

それから3ヶ月が経った。

毎日のように虐待を続けていたら、最近イーブイが、アメを拾って来るようになった。

私はその地面に落ちていたであろうアメをイーブイに食べさせる。もちろん健康に悪い夜にだ。

そして今日も今日とて拾ってきたアメを食べさせる。そうしたらイーブイが何故か光り始めた。眩しい光が消えたと思つたら、そこに居たのはイーブイではなく、イーブイよりも少し大きく、黒い色をしたポケモンだった。

長期間の虐待によつて、イーブイは悪の道に染まつてしまったのだ。

イーブイを虐待するために拾つて来てから10年が経つ。

長年の虐待のせい、ブラッキーはだんだんと衰弱してきた。毎日のようにオレンジ

の屋根の施設に連れていき、機械の中に閉じ込めてやることにした。

オレンジの屋根の施設、に連れていくようになって1ヶ月が経つ頃、ブラツキーは「ブラツ……」と、か細い声を上げた。恨み言だろうか。次の日ブラツキーは息を引き取った。

これで虐待から開放されると思うなよ。

ブラツキーが怖がっていたであろう高いところ、タワーオブヘブンに連れていき、地面の中に閉じ込めたあと、重い石で蓋をする。

そして、たまにここを訪れて鐘をかき鳴らしてやるのだ。

私の虐待はまだまだ続いている……。